

付着生物ラーバ情報

マボヤの付着が進んでいます

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは11月25日に奥内沖で4.2個体/m³、久栗坂沖で1.7個体/m³、12月2日に奥内沖で1.7個体/m³、12月4日に野辺地沖で3.1個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称: カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは11月25日に奥内沖で5.0個体/m³、久栗坂沖で10.0個体/m³、11月26日に野辺地沖で4.7個体/m³、12月2日に奥内沖で11.7個体/m³、久栗坂沖で5.6個体/m³、野辺地沖で36.7個体/m³見られました(表1)。

(3) マボヤ

ラーバが11月25日に奥内沖で7.5個体/m³、久栗坂沖で0.6個体/m³、11月26日に野辺地沖で1.6個体/m³、12月2日に奥内沖で17.5個体/m³、卵が11月25日に奥内沖で10.0個/m³、久栗坂沖で0.6個/m³、11月26日に野辺地沖で5.5個/m³、12月2日に奥内沖で6.7個/m³、久栗坂沖で5.6個体/m³、野辺地沖で3.1個/m³見られました(表1、図3)。

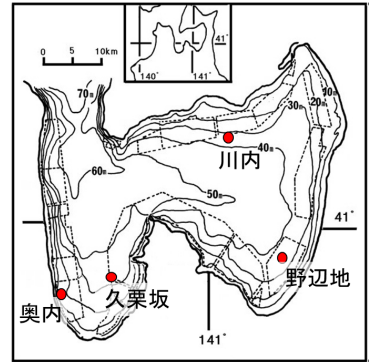


図1 付着生物ラーバの調査地点

表1 ラーバの出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	マボヤラーバ	マボヤ卵
奥内沖	R6.11.25	4.2	5.0	0.0	7.5	10.0
	R6.12.2	1.7	11.7	0.0	17.5	6.7
久栗坂沖	R6.11.25	1.7	10.0	0.6	0.6	0.6
	R6.12.2	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6
野辺地沖	R6.11.26	0.0	4.7	2.3	1.6	5.5
	R6.12.4	3.1	36.7	0.0	0.0	3.1

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

陸奥湾内の中層水温は10~13℃台とユウレイボヤが産卵する水温になっています。

10月以降の累積ラーバ出現数は、奥内沖で11.7個体/m³、久栗坂沖で6.3個体/m³、野辺地沖で8.6個体/m³と付着数が多くなる目安である5.0個体/m³より多い状況です。

今月はラーバが本格的に出現しており、現在、ラーバが多い海域では大量のユウレイボヤが付着し、出荷時期に作業効率が低下する可能性があります。

(2) ムラサキイガイ

ラーバが出現していますが、秋から冬生まれのラーバはほとんど付着しないことが分かっています。

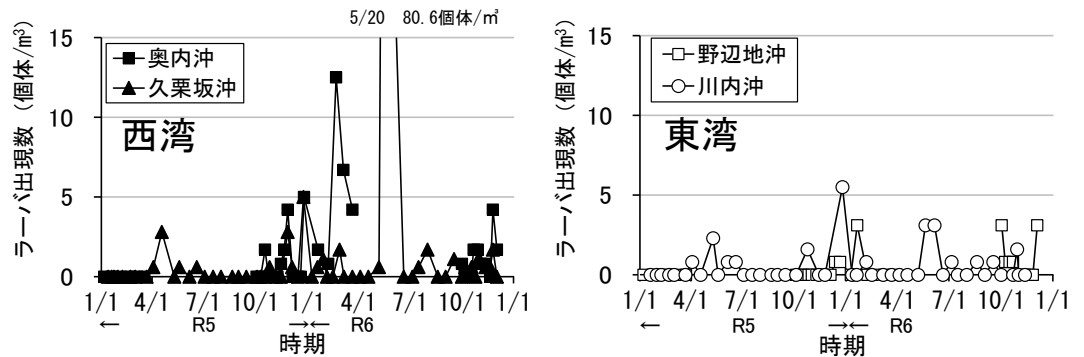


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和5年1月~令和6年12月)
・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾25個体/m³、東湾10個体/m³

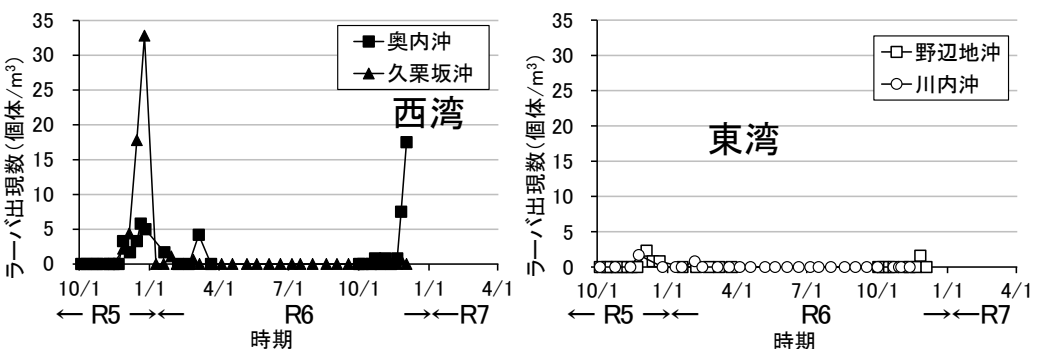


図3 マボヤラーバ出現数の推移 (令和5年10月~令和6年12月)
・平成28年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾33個体/m³、東湾5個体/m³

3 マボヤ天然採苗情報

ラーバと卵の出現数が増加したことから、付着が進んでいると考えられます。

